

世紀の遺書



世紀の遺書

巢鴨遺書編纂会



復刻 世紀の遺書

昭和五十九年八月十五日 第一刷発行
昭和五十九年九月十五日 第二刷発行

編集 巢鴨遺書編纂会

編集著作権者 白菊遺族会

発行者 鈴木茂次

発行所 株式会社講談社

東京都文京区音羽二―十二―二十一 郵便番号 一一二
電話東京(〇三)九四五―一―二一(大代表) 振替東京八一三九三〇

印刷所 多田印刷株式会社

製本所 大製株式会社

定価 三八〇〇円

落丁本・乱丁本は小社書籍製作部宛にお送りください。
送料当方負担でお取替えいたします。

© 白菊遺族会 一九八四年 Printed in Japan

序 文

第二次大戦の終結の中にすでに次の大戦の兆が生れ、正義と平和を實現しようとする国々の努力が、却つて世界を自殺的な危機に駆りたてるとは何と云う大きな矛盾でありましょうか。今日の日本の政治経済或は思想上の混乱も、謂わばこの世界的矛盾の一環に過ぎません。第三次世界大戦が起れば幾千年の文化は破壊され、人類は滅亡に瀕すると云われていますが、このような暴力の源は原子兵器でもなければ細菌戦でもなく、実にかかる戦争を生むに至つた近代文化に内在するものであり、更に遡れば現代人個々の心にひそんでいるものと云わねばなりません。私たちはこの混沌の底に在つて、理性と善意に絶望する前に今一度赤裸々な人間に立ちかえり、一切を見直す必要に迫られております。然るに茲に強制された逆境を契機として、この様な深い内省をして来た一群の同胞があります。それは所謂「戦犯」として斃れた人々であつて、その最後の声に私たち同胞は心から耳を傾けるべきだと思います。

戦犯者に対する見方は種々ありましょうが、高所より見ればこれも世界を覆う矛盾の所産であつて、千人もの人々が極刑の判決のもとに、数ヶ月或は数年に亘つて死を直視し、そして命を断たれていつたと云うことは史上曾つてなかつたことであります。恐らくこれ程現代の矛盾を痛感し、これと苦闘した人々がありますまい。一切から見離された孤独な人間として単身この矛盾に対し、刻々迫る死を

解決しなければなりませんでした。それは自身との対決であり、同時に真理を求める静かな闘いでもあったのです。

戦争は直接の目的として相手の死を求め、手段として自身の死をも要求します。このため日本人は「死」そのものを最高善の如くさえ教え込まれて来ました。然るにこの人々は強制された死に直面して生きる喜びを知り、最後の瞬間まで自身をより価値あらしめようと懸命に努力しております。それは自己の尊厳と生命の貴さへの覚醒でありました。「己の如く隣人を愛せよ」と云われますが、自己を真に愛することを知らずして他を愛することは出来ず、最高の徳とされる犠牲的精神も正しい意味の自愛の反転に外なりません。「死に直面して一切が愛されてならない」と云う或遺書の一節は端的にこれを物語っております。

この心は即ち肉親愛でもありまして、すべての人が言葉をつくしてその父母妻子に切々たる情を伝え、身の潔白を叫ぶのも寧ろ遺族の将来の為に汚名を除かんとする努力なのであります。更に愛は郷土へ祖国へと拡がり、遂には人類愛に迄高められております。人道の敵と罵られ祖国からも見離された絶望の底に於て、尙損われることのなかつた純粹なこの愛国心は改めて深く見直されるべきであり、この基盤なくしては人類愛もまた成立し得ないものと思うのであります。

この書に収められた七〇一篇の遺書遺稿は何れも窮極に於て日本人は何を思い、何を希うかを赤裸々に訴え、同時に人間の真の姿を如実に示しております。固より思考力の差や死刑囚生活の長短によ

つて、その到達している段階は種々であります。そこには力強い一つの流れが明かに感じられます。そうして純粹にして豊かな人間性の叫びは、私共の徹底的な反省を促し、新たな思惟に貴重な示唆を与え、更に私たちを鼓舞して止まないであります。

戦犯死刑囚の多くと接しその最期を見送つて来た私には、この人々のために戦争裁判について訴えたいことが鬱積しておりますが、この書の目的がこれらの人々の切々たる叫びを世に生かさんとする未来への悲願であることを思い、寧ろ黙して故人と共に一切の批判をも将来に委ねたいと思うのであります。

この書を読んで私はその一篇々々に滂沱たる涙を禁じ得ませんでした。それは悲痛の涙であると同時に美しく逞しい日本人の心に浸つた感激の涙でありました。かくも龐大な資料により人間窮極の叫びを集成したこの書は世界に例のない貴重な文献として、国境を超え時代を超え、不易の生命を以て絶えず世に叫びかけるものと信ずるものであります。

昭和廿八年八月十五日

巢鴨教師
大正大学教授

田 嶋 隆 純

目次

序文

日支の楔（中国）

日支の楔とならん	野田毅	一
日々是好日	黒沢次男	四
中国兵の涙	吉田保男	八
暗黒の世界より	大庭早志	二
出発	中野久男	七
出発	田島信雄	三
死刑囚の夢	久保江保治	三
一粒の麦	李安	三
一粒の麦	小場安雄	三
一粒の麦	向井敏明	三
一粒の麦	増木欣一	三
一粒の麦	望月為吉	三
一粒の麦	谷寿夫	三
一粒の麦	大場金次	三
一粒の麦	満多野仁平	三
一粒の麦	兼石 續	三
一粒の麦	松谷 義盛	三
一粒の麦	白岩 定夫	三
一粒の麦	金山 弓雄	三
一粒の麦	小谷野正七	三
一粒の麦	山下 時満	三
一粒の麦	富田 堯人	三
一粒の麦	赤 木	三

荒

残

悠

聖

心

火

祖

魂

照

ん

歳

に

氷

れ

近藤 新八…五 水膳 英雄…五 市川 正…五 水中屋 義春…五

堀本 武男…五 芝原平三郎…六 山田 通尉…六 田中 寅一…六

相川 清七…三 吉川 悟保…三 遠藤勘一郎…三 田中 勇高…三

石尾 清…三 木下 尊祐…六 田中 政雄…六 染谷 保蔵…六

岸田 嘉春…六 鮫島 宗義…六 中川 正雄…六

山田 恒義…六 外山 文二…七 汐海 茂…七 伊庭 治保…七

五十嵐孫三郎…七 日高 保清…七 石上 保…七 下田 治郎…七

宮地 春吉…七 野上 誠…七

米村 春樹…七 白鳥 吉雷…八 平野 儀一…八 富田 徳…八

田中 軍吉…三 妻刈 悟…三

古川 武…八 岩広 一二…八 植野 誠…八 鬼頭 寛二…八

松本 芳雄…七 山口 久美…八 高貝 勝…八 谷口 三郎…八

坂田 朝男…七 林田富士男…七 貝塚 泰男…七 坂本 春吉…七

前田 三郎…七 前崎 正雄…七 安藤 茂樹…七 鈴木 明…七

三島 光義…七 徳本 光信…七 中村 三郎…七 沢 栄作…七

高谷 巖水…七

藤井 力…一〇 楠木 正隆…一〇 増田 耕一…一〇 増井 昌三…一〇

大 好 き な 日 本 桑 島 恕 一 106
 白 川 与 三 郎 107
 酒 井 隆 108

考へる葦（蘭印）

考 へ る 葦 山 根 重 由 113
 独 房 悲 語 半 沢 勇 118

試 最 後 の 三 日 間 (一) 伊 東 義 光 124
 清 水 辰 夫 127

同 (二) 大 柴 林 130
 同 (三) 中 村 益 視 135

生 命 の 余 白 氷 見 谷 実 137
 母 を 恋 ふ 村 上 博 140

若 き 叫 び 高 橋 政 義 150
 服 部 直 151
 早 田 清 高 151
 畑 田 実 153

心 涼 し 金 井 清 154
 平 山 辰 巳 155
 和 田 実 155
 青 木 茂 一 郎 155

勝 村 良 雄 156
 三 薗 孝 156
 浜 中 匡 甫 156
 鈴 木 千 代 喜 158

菅 原 功 159
 米 南 部 義 一 160
 山 本 安 一 160
 安 島 末 蔵 160

相 馬 竹 三 郎 161
 山 村 秀 次 郎 161
 松 本 司 一 163
 山 根 隆 163

帰 国 の 日 も 待 た ず 菊 竹 末 雄 164
 中 村 清 166
 牧 野 周 次 郎 166
 堀 井 一 忠 171

孤島の土となるとも

窪田 典人…一七
久米 武三…一七
山本 学…一七
石田 光行…一七
藤野 良雄…一七
吉村甲子郎…一七
山口 秀吉…一七
花岡 貢…一七

後世の批判にまつ

牧内 忠雄…一七
久世 一雄…一七
笠間 高雄…一七
松田 定信…一七
山口 子郎…一七
田沢 勇…一七
中島 環…一七

残

恨

芦田 昭二…一七
林 幸雄…一七
谷口 清…一七
浅木留次郎…一七
安村 大熊…一七
横山 春芳…一七
山田 秀雄…一七
長谷川貞造…一七
上村 輝雄…一七
慶本 芳登…一七
福沢 博親…一七
栗原 厚…一七

美しく生き
愛と平和を

む

柳井 稔…一七
木村長五郎…一七
深谷 鉄夫…一七
鈴木乙治郎…一七
豊田 弘三…一七
水口 繁…一七

誰を怨まん

ん

篠田 清憲…一七
桜井 好文…一七
上杉 敬明…一七
中野 正…一七
川口新次郎…一七
楠元 信夫…一七
齋藤 甚吉…一七
村上 正吾…一七

覚

悟

福井 幸家…一七
芝 嘉寛…一七
館石吉太郎…一七
名嘉山興純…一七
国分 繁彦…一七
岡村亀喜代…一七
花房 丘…一七
岩本 三枝…一七
根本 栄…一七
金井 駒人…一七
栗原 文雄…一七
三枝 三枝…一七
野中 莊三…一七
就市…一七

隊	長	の	面	目		三二	
神	意	の	ま	ま	に		二七
心	落	唯	心	花	心		三八
玉	つ	ゆ					三九
え	に	し					四〇
父	祖	の	家				四一
兄	弟	へ					四二

長瀬	健三		三三
少路	始義		二六
岡田	慶治		二七
吉田	昌司		三三
小玉	寿吉		三四
田辺	盛武		三四
竹本	忠男		三七
山中	朝夫		三八
堀内	豊秋		三九
本多初治郎			四〇
奥	正成		四四
太田	秀雄		四七
知念	清信		五一
根立	一		五三
沢田	栄人		五三
古瀬虎獅狼			五四
宮崎	良平		四九
鶴見	俊二		五一
渡辺	莊蔵		五三
小高	寛		五三
五家	重雄		五〇
井野勝太郎			五一
鈴木	隆憲		五一
大熊	正雄		五一
納富	季雄		四二
野口	秀夫		四五
吉田			四四
新穂	智		四六
池田	末吉		四四
佐藤	源治		四七
宮島	順吉		三五
岡島	利香		三七
高松	信夫		三八
曾根	憲一		三九
奥村	光男		三五
小関	正義		三七
菅野	金吾		三八
西浦	堯三		三七
安藤	義寿		三六
加藤道太郎			三七
小方	文次		三七
海野	馬一		三八
後藤	良雄		二九
井手尾	薫		三一
佐藤	平吉		四四
三賀	彦松		五五
湯村	文男		二六
前田	利貴		五七

愛しき妻へ……………二六二

子に遺す……………二六六

森 国造…二六六 杉林 武雄…二六七 田上 八郎…二六八 金丸 秀藏…二六九
岩谷 勉…二七〇 真鍋 茂雄…二七一 多田 初二…二七二 田中 透…二七三
玉きはる命のきはに……………二七五

長 幸之助…二七三 佐々木寿郎…二七四 服部 素善…二七五 一条 実…二七八
三樹 寛…二七七 河村 明…二七八

彼岸への友情……………二七九
二十四時間の記録……………二八〇

運命 (ビルマ)

わが運命を裁く……………二八五
藤田 正治
恩 愛……………二九三
中山 伊作
小 さ き 生 命……………二九五

塩田 源二…二九五 緑川 寿…二九七 岩城 喬…二九八 癸生川 清…二九九
加藤 広明…三〇一 市川 清義…三〇三 徳山喜美与…三〇三 片山 四郎…三〇三
松岡 憲郎…三〇四

日本の進むべき道……………三〇四
＊東 登…三〇五 神野 保孝…三〇六

礎

(マレー・北ボルネオ)

英國に告ぐ.....河村 参郎.....三二

穂積 銳.....三五
鴨居 義弘.....三七
永友 吉忠.....三九
喜多 富夫.....三五
郷端 逸人.....三八
大川喜三郎.....三六
川井吉次郎.....三八
横見 忠夫.....三七
新 重俊.....三九

わが祖国よ.....三三

合田 豊.....三三
江草 忠義.....三四
吉村 役雄.....三七
島 信雄.....三三
小笠原 操.....三五
山口 春男.....三六
小林 庄造.....三三
上谷喜多一.....三三
三浦 光義.....三七

實を果して.....三九
佐藤 為徳.....三九
*山口阿久利.....三〇
*谷岡 義照.....三三
上木原 進.....三六
蜂須賀邦房.....三三
芥川 光哉.....三六
牧園 益男.....三七
下村 友平.....三一
今井今朝五郎.....三四
角田 春三.....三二
合志 幸祐.....三四

我に恥なし.....三九
野口 秀治.....三七
阿南三蘇男.....三九
内村 貞雄.....四一
寺田 隆夫.....四三
大西 繁蔵.....三七
沢根初太郎.....三九
向 平八.....四二
森田 庄蔵.....四四
豊島 種治.....三八
島崎 繁一.....四〇
久保木 登.....四三
栗国 良助.....四四
中野 忠二.....四五
柳本 静一.....四五
*浅井 健一.....四六
高吉 栄蔵.....四七
黒沢 貞男.....四九
寺越 恒男.....四八
西 嘉信.....五〇
*松岡 勇.....四八
亀沢 松年.....五〇
豊田 秋市.....四九
橋田 進.....四七
黒沢 貞男.....四九
寺越 恒男.....四八
西 嘉信.....五〇
*松岡 勇.....四八
亀沢 松年.....五〇

笑つてゆく.....三九

天

命

松本 光司…三二

大石 正幸…三二 荒井 由雄…三三 星 愛喜…三四 津川 続…三五

日高 己雄…三六 福栄 真平…三七 伊藤勝三郎…三八 内田 正博…三九

林 貞彦…三九 正木 宣儀…四〇

断

腸

原 鼎三…六一 金子 稔…六二 倉島 秀一…六三 石井 民恵…六四

中村 鎮雄…六三 都留 義広…六四 水谷藤太郎…六五 矢野 徳家…六六

闘

魂

清水 辰雄…六六 屋 政義…六七 佐瀬 頼幸…六八 平松愛太郎…六九

矢島 光雄…六七

昇

行

原 田 熊 吉…七五

父 母 に 詫 び

る

久川 重博…七六 *永田作之進…七七 小崎 福一…七八 *犬島 章…七九

臼杵喜司穂…七八 田中 秀雄…七九 森 正男…八〇 福本 幸男…八一

東西 寛…八〇 羽金輝世治…八一 原田 国市…八二 辻 豊治…八三

藤江 竹夫…八二 永翁 秀雄…八三 和所 伴嗣…八四

父よ母よ褒めて下さい

菅原 永三…八四 渡辺 一正…八五 大貫 保男…八六 *高柳 義信…八七

渡辺 勉…八五 音田 浩…八六

立派な子になつてくれ

森 義忠…八六 *高崎 信治…八七 中村 鶴松…八八 岩田 光儀…八九

山本 辰雄…八八 東川 好信…八九 渡辺 正作…九〇 涌井 三郎…九一

田沢 啓三…九〇 平沢 厚…九一 駒井 光雄…九二 松崎 稔…九三

美しき仲間

鶴田 壮市…四〇六 中山 春美…四〇六

* 信沢 寿…四〇七

小見 正…四〇八

弘田 栄治…四〇九

野沢 藤一…四一一

四〇七

友野 春三…四一二

大塚 操…四一二

牛島 勝市…四一四

渡辺 綱彦…四一五

四〇八

馬杉 一雄…四一五

夢

毛内 但守…四一八

三橋 又一…四一九

宮本 久…四二〇

松岡八郎右衛門…四二〇

四一八

多田 美好…四二一

日本

晴

三浦 市蔵…四二二

小川 敬…四二三

鎌田 喜悦…四二三

内田 実…四二三

四二一

島田蔵之助…四二三

帰

依

引地 進…四二四

大本 清鏡…四二五

清水 定夫…四二五

鈴木 庄蔵…四二六

四二四

後藤 辰次…四二七

笠井 次雄…四二九

下沢 隆治…四三一

佐伯 一二…四三三

四三三

朝粥のかなしみ

栄島 信男…四三三

木村 久夫…四三三

木村 武雄…四三三

工藤 彦作…四三三

四三三

清水喜代治…四三四

山内 覚…四三四

山川 保二…四三四

辻尾 茂夫…四三四

四三三

糸満 盛忠…四三四

橋口 正男…四三五

東洋の血

血

金 長録…四三五

千 光麟…四三五

張 水業…四三六

金 栄柱…四三六

四三五

姜 泰協…四三六

金 貴好…四三七

金 沢振…四三七

朴 栄祖…四三七

四三六

安田 宗治…四三七

あつかなる暁の雨

分

趙 文相…四三八
中 田 新一…四三三

迎 春（香港）

迎 春……………四七

左近允尙正…四七 中島 徳造…四七

神 命……………岩 崎 吉 穂……………四三

朝 死……………霜 と の……………命……………四六

山田規一郎…四二 *植手 多一…四三 田村 劉吉…四六

堤島 万巖…四六 牛山 幸男…四七 *田村 禎一…四八

久留田 巖…四八 平野 昇…四七 川本 要…四八

我 觀……………音……………經……………高山 正 夫……………四三

も……………遂……………に……………金 沢 朝 雄……………四七

南 十 字 星（濠洲）

南 十 字 星 の も と に……………後 藤 大 作……………四八

十 八 人 に 代 り て……………田 島 盛 司……………四八

部 下 の た め に……………森 本 清 光…四八 山本 正一…四九

鈴木 直臣…四九 三角 教明…四九 相沢 治索…四九

安達二十三…四九 白木 仁一…四九

祖 国 に 祈 る……………加藤喜八郎…五〇 原田 信行…五〇

村井 幸一…五〇 上峠幸之助…五〇 伊藤 博…五二

宮崎 凱夫…五二

日濤をむすぶもの 五〇四

妻子よ強く 五〇六

たちねよ 五二七

星月夜 五二三

天を恨ます 五二八

ちぎれ雲 五三六

桜の歌 五四二

馬場 正郎 五〇四 片桐 理 五〇四 矢部 真博 五〇五 白水 洋 五〇五

片山日出雄 五〇六 星島 進 五〇八 山口 健章 五〇九 上中常次郎 五一〇

渡部 源蔵 五一 中村 森之 五二三 矢島 栄一 五二三 本地 又二 五二三

宮坂 伝治 五二四 津繩 孝彦 五二四 佐々木 東 五二六

佐藤 彦重 五二七 高橋 豊治 五二八 上野 孝一 五二八 黄 来 金 五二九

八木 芳雄 五二九 坂本忠次郎 五三〇 李 琳 彩 五三二 柿沼 盛夫 五三一

尾方 盛 五三一 櫻本 直次 五三三 間山 己八 五三三

篠原多磨夫 五三三 中山 洋臣 五三三 長谷川順栄 五三四 阿部 一雄 五三四

＊吉川 春雄 五三五 加藤 栄吉 五三五 野村 浩一 五三六 福原 昌造 五三六

宮本 逸八 五三八 ＊佐野 猛男 五三九 佐久間 彌 五三九 池内 正清 五四〇

＊川原 清宗 五三一 ＊鈴木 豊 五三三 甲村 武雄 五三三 石山 熊吉 五四四

島川 政一 五三五 山本兵太郎 五三五

岸 良作 五三六 松尾 勝 五三七 海老根七之助 五三七 細谷 直二 五三九

多田 政市 五三九 平石 国義 五三九 松村 忠 五三九 畠山 保徳 五三九

高井 一義 五三九 蔣 清 全 五三九 佐野 久一 五三九 平 岩夫 五四〇

稲垣 勝 五四〇 茂木 基 五四一

大久保正雄 五四二 坂田 次郎 五四二 岩佐 時雄 五四三 馬渡 国義 五四三